

ニーズに応じて造園を身近なものに

起業しようと思ったきっかけは？

私は中学校2年生の時に、高校教師をしていた父親を病気で亡くしています。当時は漠然と、父の背中を追って教師になるものだと思っていました。ですが大学在学中、大工や塗装業の職人になった友だちが生き生きと仕事をしている姿を見て「職人ってかっこいい」と思ったんです。子どもの頃、父親の仕事の関係で自然豊かな伊豆大島に住んでいたことも影響し、生き物と触れ合うことのできる造園業をしようと思えました。

きがけさえうまくできなかつたんです。その悔しさをバネに知識を学び、経験を重ねていきました。知り合いから「二度大きな造園会社で学ばせてもらった方がいい」と勧められ、22歳から34歳まで守谷の造園会社で修業。そして12年前に念願の独立を果たしたのです。

時代の変化によって造園のニーズも変わりましたか？

私が造園業を始めた頃は、まだバブル時代。和風庭園造りなど、豪華な造園を希望されるお客様が多かったです。しかし、時代の変化に伴い「庭を造る」ことから「管理すること」に切り替わったのです。家も洋

私を支えるこの一言

「継続は力なり」

これは亡くなった父親が言っていた言葉です。良きにつけ悪しきにつけ、結果は後から付いてくるものだから、絶対に決めたことは諦めたらいけないと教えられました。私が今日まで事業を継続できたのも、この言葉あってのことだと思います。

コトバの
キカラ



野島造園

一級造園技能士 野島 修一さん

CORPORATE INFO.

取手市栲木2428-5
Tel/Fax 0297-83-6397
携帯 090-2744-5740

野
島
造